

第17回「県政ひざづめ談議」概要

開催日時：平成20年1月17日 19：00～

開催場所：南アルプス市 飯野第十区公会堂

[司会]

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めたいと思います。

本日の進行を務めます県の広聴広報課長、田中でございます。

よろしくお願いいたします。

まず、はじめに横内知事からあいさつをお願いします。

[知事]

皆さんこんばんわ。

それぞれ夕食の後のご一家団らんの貴重な時間にお集まりをいただきましてありがとうございました。「県政ひざづめ談議」というのを年間20回やろうということで進めているわけでありまして。今日が17回目ということになるんですけども、県民の皆さんとざっくばらんに皆さんのお考えになっていることを話し合おうということでありまして。ざっくばらんに何でも普段お考えになっていることをおっしゃっていただくと。私のほうもできることはできるし、できないことはできないと本音のところを申し上げたいと思っております。

今日は男女共同参画による町づくりを一生懸命やっただいて南アルプス市の飯野の皆さん、藤田の皆さん、そして上高砂の皆さん、それから南アルプス市の男女共同参画の計画をお作りになった皆さん方、そういう方々にご参加をいただいているというふう聞いております。南アルプス市は大変にこの共同参画にご熱心に取り組んでおられるというふう聞いておりまして、私もいろんなお話を伺えるのを楽しみにしておりました。

皆さんのお話を伺いながら、県政の場でどういうふうこれから男女共同参画をいかした地域づくりを進めていったらいいのか、そんなヒントを皆さんのお話の中から得られるんではないかなと、そんなことで楽しみにしております。

繰り返しになりますけれども、是非ざっくばらんに、どんなことでもいいですから本音の話をしていただければありがたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

[司会]

本日出席しております県と市の担当職員を紹介いたします。

まず、県の企画部県民室の清水男女共同参画課長であります。

それから南アルプス市の大芝市民部長です。

本日は南アルプス市内で地域活動に積極的に参加されている皆様方と『男女共同参画ですすめるまちづくり』をテーマに意見交換会を行いたいと思います。少子高齢化社会に入

りました本県の活力を維持していくためには、女性にあらゆる分野で活躍していただくことが大事だと思っております。女性が男性と共に第一線で地域の中で活動していただくためにはどうすればよいか、それからそのために何か必要かと、そういう観点で参加者全員で話し合いをしたいと思っております。意見を聞きながら気が付いたことなど、何でも結構でありますので思うところ自由に活発に発言していただきたいと思っております。

本日いただいた皆様からのご意見、それからお考えは今後の県政の参考にさせていただきたいと思っております。

それではご発言をお願いしたいと思います。

[参加者]

それでは、最初に上高砂から活動状況をお話させていただきます。

うちのほうでは「町づくりプロジェクト」というのをやっていて、会員を自由に募りまして、今45名ぐらいいます。

その中で最年少の小学校4年生の会員が来ておりますので、まず一言もらいたしたいと思います。

[参加者]

免許センターの跡地の中に夏になると虫が採れる木があるんだけど、免許センターの中へ入っちゃいけないということになっているので、採りに行かせてもらいたいのと(笑い)そこに行って自転車に乗ったり、みんなで秘密基地を作ったりしてみたいです。

[知事]

どんな虫が採れるんですか。

[参加者]

かぶと虫とか。

[知事]

何の木があるんですか。

[参加者]

クヌギ、どんぐりもありますね。

[知事]

あれは防災公園になると切られてしまうかもしれないね。切られないようによく市長に言っておきます。(笑い)

[参加者]

それでは上高砂の、女性の方々の活動状況のお話をさせていただきたいと思います。
私のところは人口が約1,200人ぐらいで、農業と勤め人ということで分かれている区なんです。女性部の皆様が主にやっている仕事は、こういう公民館の清掃、防災訓練の炊き出しとか、夏の夏祭りの盆踊りと、そんなことを中心にお願いしているわけですが、ここ数年前から女性の皆さんから女性部を廃止してもらいたいというようなご意見が出るようになったんですね。

私が平成17年に上高砂の区長になって、南アルプス市のハーモニープラン推進委員、いわゆる男女共同参画の推進委員を区長という立場でやってくれということで行って、男女共同参画についてよく勉強したんですよ。

たまたまその時に、区の中でも女性の問題が出てきているということで、これは区民の皆さんに男女共同参画を勉強してもらおうということで、18年の5月に集落センターに男性が100人ぐらい来たかな、ここにいらっしゃる山梨大学の栗田先生にも市のほうからお願いをして来てもらったんです。

そこで僕が一番気が付いたのは、先生の講演の中で、これから区とか地域がよくなっていくには女性の知恵とか感性が必要なんだ、女性が活躍しているところは区が必ず良くなっていく、生き生きしてくるというような先生のお言葉をいただいて、昨年4月から市と山梨県と山梨大学の連携で男女共同参画を中心とした町づくりといったことを進めているわけです。

会員制をとって、是非参加したいという人を募って45名ぐらいいらっしゃるんですが、そして説明会をしたり、区内の散策をしたり、あるいは松本市の先進地を視察し、さらにはこういった街づくりプロジェクトの通信を昨年の12月配布しまして、全戸に配布をしました。

その中で一番僕が気が付いたのは、会員の皆さんが一生懸命今までに比べて意見を言う、それから議論をするというようなことが生まれてきた。これを何とか区内全体に盛り上げてみたいということではいるんですが、中々男女共同参画の視点からこれを煮詰めて末端に広げていくというのは大変じゃないかなというふうに思っております。

それから今、区の役員は、今20名いるんですが、全て男性ばかりということで、半分女性になってもいいのに女性の役員はいないということで、女性の立場から意見を求めるというのが中々できない仕組みです。これを何とか区の企画する段階から結論を出して、方針の決定するところまで女性が何らかの役割をもってもらおうという仕組みを今度考えていかなきゃならんかなというふうに思っていますね。

それからもう一つ気が付いたのが、こういう話を進めてみても男女、男性、女性が自ら自分の意思で区の活動に参画したいという機運が出てこない、中々次から次へとうまくいかないんじゃないかということで、僕はそういうことをこれから基礎固めから、そういうことをやっていかなきゃならんというふうに思っております。

[知事]

そうですね。しかしそれにしても山梨大学の先生などのご指導をいただきながら、そういうグループを作ってやることはいいことですね。

これがそのパンフレット（街づくりプロジェクトの通信）ですか。

[参加者]

はい。昨年の12月ですね。全戸に配布をしました。

[知事]

区民全員を巻き込めれば町は良くなってきますよね。

[参加者]

高砂の区長さんがお話しした、婦人部の廃止ということですがけれども、今は農家にお嫁さんがいなかったり、外に若い方が出て行ってというところが結構村にもあるんですよ、それだともう回ってきても役員を受けていただくに大変でしてね。

そして他の地区もやっていないのに高砂でだけやっているんですよ、だからもう5、6年前からやめたいと思っていましたけれども、この機会に街づくりで何か始めたいと思いついて、それでボランティアで年寄りもできるだけことは応援してやっていきたいと思つますので、できるだけ廃止の方にもっていきたく思つております。

[知事]

まあ公民館の掃除とか、そういうことが女性部の仕事だということになるとね、それはやっぱり。

[参加者]

男の人でもできますのでね。

[参加者]

ちょっと戻って先ほどの話なんですけれども、教習所の跡地が今廃墟のようになつていまして、夏の夜とかはガラスが割れたり、治安がものすごく悪い状態です。日中も森があるような所なので暗くてちょっと怖いようなんです。

次に何をするとということがまだ分からないと思うんですけれども、日中でも子どもたち開放していただいて、教習所のあのコースを子どもたちに自転車でも乗らせれば楽しんで遊ぶんじゃないかなと思うんですね。ですからそういう、子どもたちが遊べる空き地をどこか何かしていただくことができたならと思います。

[知事]

今まだ県が管理して、市とどういうふうにするかということ、これから話し合っていくでしょうね。

今オープンにできるかどうか、まあ早く公園ができればね、それはそれにこしたことはないから、ちょっとそれは市長さんと話をよくしてみましよう。

[参加者]

藤田のラブLOVEクラブが設立された経過、それをちょっとお話したいと思います。藤田地区は平成15年ぐらいから急に人口が増加しまして、世帯数も1,000世帯以上になってしまったんです。それだけあるにも係らず、自治会とか組への加入率がすごく低くて50%を割ってしまったということで、防災対策を進める上ですごい危機感を覚えまして。

それで17年になって、防災ボランティアの仲間たちが一緒になって、じゃあ自主活動を始めよう、まず区と共催して組に入っていない人たちを対象に防災の講演会を開いたんです。それと防災に関する寸劇を作って必要性を説いてきました。

18年になって、藤田区の防災の街づくりを始めたんですけれど、膨大になった区の再編成と、新旧の住民の交流を何とかしたいということで、藤田の町づくり委員会というものを設立しました。

その時、3つの取り組みをみんなで考えたんですね。その1つに小地域の防災体制づくりとして、50世帯を目安にした防災班を作ろう、そしてそれを機能させるようにしたいということ。

2つ目は新旧住民のふれあい事業で、この今ここにありますもち米作りなんです。

それと3つ目が宿泊型の避難所体験。この3つにしたんですけれども、ふれあい事業と避難所体験はこちらの担当から話をします。

[参加者]

ラブLOVEクラブの代表の補佐をさせていただきます、よろしくをお願いします。

新旧の住民ふれあい事業は、このもち米を作りました。これは若草南小学校の児童とその家族を対象に募集して、11組、25名の参加を得ました。これは藤田区と育成会、あと男性ボランティアと若草南小のPTAの協力の下に5月に手で田植えをして、当番を決めて水を毎日みんなで交替で見ました。7月に草取りをして、これは無農薬で作ったんですね。

[知事]

何反歩ぐらいなんですか。

[参加者]

2反歩です。

[参加者]

その後にかかしを作り、9月の稲刈りは子どもが鎌を始めて使って稲刈りをして、みんな大変喜んでいました。そしてあと藤田の八幡神社の秋祭りの時に餅つきをして、区民の方たちとのふれあいを楽しみました。

収穫したこのもち米には袋に作業している写真をラベルとして貼って、これを参加者に2キロずつ、一つずつを配って、残りは格安で販売して、苗と肥料代を賄って残金はこれ

からの活動資金に充てていきます。

次の3つ目の宿泊型避難所体験、これは実際の避難所の実情に照らした類似体験を行いました。藤田区と自主防災会と、あと防災の町づくり委員会が主催して、若草南小学校のPTAと南アルプス市、あとNPO法人災害・防災ボランティア未来会の協力の下に行われました。

この宿泊体験には子ども22名と大人10名が参加しました。これは夕食を住ませた18時に集合して、防災クイズをして楽しんだ後に、19時半から同時共催された防災講座を大人たちが聞いて、子どもたちは難しいので救急法と、あと災害時に役立つ口ソク作りをしました。その後に体育館に跳び箱と卓球台等で狭い区画を作って、一人一畳弱の固い床の上で寝る体験をしました。朝は非常食の朝食をとった後防災ワークで色々な想定での災害のシミュレーションをしました。あとは講座への参加者60名のアンケート調査から地震の怖さ、防災意識や知識の低さ、備えの重要性などを学ぶことができ、有意義であったと参加者が言っていました。

[参加者]

そんな形で色々事業をやったんですけれども、先ほど上高砂の区長さんが言ったように、女性がいろんなものに取り組むことを、余り上のほうから、こういうふうに女性が女性と言われると中々動きづらい部分もあると思うんですよね。

藤田区の場合は何かそういう目的を持った人たちが自然に集まって、そしてまたこれが藤田の区長に、すごい乗せられて私たちは子どもがご褒美をもらうような、嬉しくて達成感もあるし、満足感もあるし、すごいいい気分です。今いろんなことをさせてもらっています。これはやっぱり知事さんにも是非見習ってもらって・・・。

[知事]

今もお話を聞いていて中々いいアイデアですね、いずれも、3つとも。

この避難所、一日避難所体験というのはみんな子どもたち喜びますでしょう。それで何となく仲間意識もできたりしてね。そして自然と防災についてのいろんな勉強ができるということもあるし、一日ぐらいじゃみんな子どもたちは楽しいですよ。

[参加者]

そうですね。一日だから耐えられたけれども(笑い)。2日、3日続くとやっぱりきついなと子どもは言っていましたね。

[知事]

このもち米を作るといってもいいじゃありませんか。普通のお米じゃなくてね、もち米というところがいい。最後はお餅をついて楽しめますものね。中々アイデアのある方がおられますね。

[参加者]

みんな考えて、まあ男だから女だからということではなくて、藤田の地域をみんな愛

して、藤田をどうにかしようというその仲間が集まって、そういういろんな発想が出てきたんです。それが藤田のラブLOVEクラブに繋がって、今そういう活動をしているということなんです。

ラブLOVEクラブの私たちも活動していく上で、藤田のことを藤田の人に知ってもらいたいということで、じゃあ通信を作ろうということで、まだ案を練るところなんです。

これからの活動をすごいがんばっていきたいと思っております。

[知事]

まあ50世帯ぐらいの小地域での防災機関というか、自主防災組織ですね、これは非常に大事なことですよね。

自主防災組織というのは自治会全体ですと藤田のように2千人も3千人もいると中々ちょっと大き過ぎますよね。だからもうちょっと50人、あるいは2、30世帯、50世帯ぐらいでやるのが、やっぱり地震が来た時に、阪神淡路大震災の時に地震で圧死者が非常に多かったわけですけれども、建物に閉じ込められた人たちを救ったのは消防とか警察じゃなくて近所の人たちですよ。それが8割の方がそうやったわけですから、やっぱりこういう自主防災組織という隣近所の組織というのは非常に大事なんですよ。

だからその自主防災組織を県もやっぱりもうちょっと小さい範囲で作るように皆さんにお願いしなければいけませんね。

[参加者]

藤田区長ですが、これはきっと県下でも珍しいケースだと思うんですけどね。たまたまそういう男5人、女5人、10人の防災ボランティアの講座を受けた人たちが、区へ申し入れてくれたんです。こんなありがたいことないですよ。たまたまそういう人がいてくれたからだけ、多分少ないと思うんですけどね。

そしてついでにそんなことを言っちゃあれだけど、その避難所体験の時に子どもに朝、感じたことのアンケートを取ったんです。その中の一人の子どもが「スタッフの皆さんに感謝する」と書いたですよ。私は嬉しかったですよね。子どもがそこまで、藤田にこんな子どもがいるかと思ってね、嬉しかったですけど。

まあこれもちょっと言い過ぎかもしれんけれど、何かを言いたい、何かをしたいという人がいると思うですよ。その意見を拾い上げてね、それをだーっと大きな力に持っていくというような、何かそういうようなことを普段心掛けているということは大事なかなというようなことを思うんですけどね。

そのシグナルを出しているということはあると思うですよ。だから自分のほうからあらゆる人に、あらゆる機会に口をきいて、何かこうというようなことを、答えようということがむしろ大事かもしれんですよ。

[知事]

区長がやっぱり地域育て術について、やっぱり住民の皆さんも色々な形で地域づくりに巻き込んでおられるんでしょうね、きっとね。やっぱりそのテクニックがうまいというこ

とですよ。(笑い)

[参加者]

飯野10区の副区長をします。

今、藤田のラブLOVEクラブさんの話を聞いていますね、これやっぱり是非県として取り上げていただきたいという希望が実はございます。くしくも今日は、神戸大震災から13年ということで、いろんなニュースをやっていました。

そして今も知事さんが言われましたように、やっぱり地域防災、自主防災のキーマンがというのは女性が非常に大きいと思うんですね。たまたま男女共同参画ということなんですけども、時間帯にもよりますし、防災という観点から考えても非常に女性のこういったパワーというのは大きいと思うんですね。

おそらく県内でも幾つか組織がもう立ち上がっていると思うんですが、県としても行政としても自主的にそういった組織がどんどんどんどん芽生えてくれるということは非常に力強いことだし、いいことだと思うんですね。

それにつけて是非行政として何らかのバックアップ、最初は表彰でもいいでしょう、PRでもいいでしょう。まあ財政的な援助というのは色々難しいところあるかと思います。少なくともこの地区のこういった組織がどういう活動をしていると。県としてもバックアップするよ、推奨するよというようなことで、県内の市町村、まあ区、非常に小さい組の単位にもそういったふうなものが、例えば5人の組織であっても10人の組織であってもいいと思うんですね。そういう組織がいっぱい、まあ点になって出てくる。それが面になる。ここまでいったら非常に力強い防災組織というのが上から言われる組織ではなくて、我々が本当に助け合う組織として発展していくような気がするんですね。そういったふうなことで、サイドからのバックアップといいますか、そういったふうなことをどんどんどんどん取り上げていただいて、最終的には財政的な多少の援助もあったりしていただければなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

[知事]

そうですね、何かのバックアップを、まあ財政もですけども、表彰なんかそれは金が掛からずに(笑い)、金が掛からないで何かやるというところすぐ表彰ですね(笑い)。しかし大事なことです。

[参加者]

今、私たち飯野10区で女性防火クラブ委員として地域の安心、安全、そして生命、財産を守るという、そういう使命に活動しております。

今年も1月の南アルプス市の出初め式に参加しております。

そして、女性の連絡協議会に入っています、そして地域の女性団体のほうからのいろんな情報を得ております。そして一応県の防災フォーラムですとか講演会、そして防災訓練、地域の防災訓練の参加には放水などをして、放水をしながら男性に負けないように力

を出してやっております。ですからそれが本当に男女共同参画というか、その立場として十分地域の区の中に参加しているものと自負しております。

7名がそれぞれいつも防火のことを意識しながら、独居の老人のところに消火器を配るとか、今度の日曜日には区の全体に防火というか命の笛と言いますが、これを全戸に配布しようと計画しております。

こういった取り組みが地域の安心、安全ということであると思っております、それが知事さんの言われるような「暮らしやすさ日本一」というものを地域の本当に小さな輪から発信していきたいと思っております。

それからもう一つ、私も愛育会の一員ですけれども、ここの後ろのほうにある写真のように七夕祭りとか敬老会とか餅つき大会とか、愛育会で2年間役割があるわけですけれども、区長さん、元気会の会長さん、そして子どもクラブ、そして児童民生委員さん、その方たちに私たちが提案を出す時に一緒に会議に出させていただきまして、行事にはいつも参加、協力していただきまして、それがこの区の地域を活性化する力になったような気がいたしております。それが現状であります。

こちらにある布のぞうりですけれども、これは愛育の女性の方たちに協力いただきまして、全戸の女性ですね、そして作って70何名の敬老者にプレゼントをいたしました。

[知事]

本当に色々な活動をしておられてね、心強いですね。

[参加者]

小泉首相が首相になっている頃は男女共同参画がすごい身近にあったんですが、段々段々遠くなって行って、何かすごい心細いような気がして、やっぱり行政の力をそっと添えていただくことによって、すごいそこが活性するということがあると思っております。

[知事]

確かに小泉さんの時に男女共同参画社会基本法だとかずいぶん熱心にやって、大臣なんか女性をいっぺんに4人入れたりと、思い切ったことをおやりになったんですがね。その後、それだけやっぱり世の中に定着したということもあるんでしょうけれども、余り男女共同参画というようなことを大きな声では言わなくなってきましたね。

しかし社会には確実に定着しつつあるなという感じはしますですね。私も大変大事なことだと思って、女性の知恵委員会というのを作りまして県政のいろんな面で女性のそういう感性とか知恵とか、やっぱり日常生活を常に見ておられますから、地域のこととか、そういうことは一番よくお分かりになっているわけで、そういう目で県政を見直そうということで、委員会をやりました。

私にとっても大事な課題だと思って、こういう場で色々聞かせていただければ、そういうことも大きなヒントになるというふうに思っています。

[参加者]

私は今の飯野10区の現状をちょっとご紹介して、各々の活躍のところはその担当の皆さんにご説明をしていただきたいと思います。

ちょっと机のほうに資料をお出ししておいたんですが、まず10区の今のいろんな構成ですけどね、今の構成、組織図というのはその書いてあるとおりで、その中には男女の比は書いてないんですが、役割分担で各々で男性、女性役割分担きちっと持って、防火クラブも、愛育もそうですし、そんな形の中で区の運営が図られているというのが現状です。

それでうちの人口構造なんですが、データをグラフ化してみると中々おもしろいなと思うのは、今の10区の人口構造を見ていただきますと幼年人口と言うんですかね、少年人口ですね、これ14歳まで、これは日本人口統計と同じ形で分析をしてあるんですが、まあ全体の10%。それから生産人口、これが60%を切っています。そして高齢人口にいたっては全国平均20%のところは今30%あるんです。ということでどことも同じ、非常に高齢化の構想が見えているなというところをまずうちの区でもそういうところがあるなど。

そんな中で構成の中で見ていただくように10区の場合にはまず元気会がありまして、子どもクラブ、各々が役割分担を持ってやっていますので、その活動状況をその担当の方に、ちょっとご説明をしていただきたいと思いますと思うんです。

[参加者]

飯野10区の、一応この南アルプス市では元気会と言っていますけども老人クラブを担当しています。

私は何か男女共同参画という言葉に10区としては必要ないじゃないかというようなことも最近考えるようになったんです。というのは女性がさきの2、3人の話にありますように非常に進出していて、男性が影が薄いということはないですけども（笑い）、女性の方たちがあらゆる面に、例えば元気会でもそうですけれども、ちょうど50、60歳ぐらいの女の人たち、とにかく女性が全部、世帯持っている女性が愛育会というのに入って、そして全て行動を共にしている。

今言う消防隊のことを話すと、相当前から婦人消防隊というのがありまして、ちゃんとポンプを買ってありましてね、そして小規模のポンプでやっていますけれども、そういう婦人独自の活動がしっかりしている。

元気会は今のところ会長を私がやっていますけども、今まで3人女性が会長をやったんですね。

私はこの10区という区は、やはり女性中心、女性が相当活躍しているという、その核はやはり婦人市議員ですね。この方は本当に子ども扱いが実にうまいんですね。子どもの隅々までのことを考えて、餅つきでも七夕でも、みんな子どもを対象にしてやっている。それへ、もちろん女性のお母さん方はすぐついてきますよね。そしてそういうことで本当に、分かりやすくいうと今、公平に見て10区は女性上位（笑い）、というようなことを言いたいです。

しかもそこをうまく各地区、各団体、各層へ顔を出して調和を取っているのがこの区長

なんです。

だから私は今のところこの男女共同参画社会の見本になっているというふうなことを考えております。

[知事]

飯野 10 区というのは昔から女性上位の地区だったんですか (笑い)。

だから女性市議員が誕生したのか、女性市議員がいたから女性上位になったのか・・・。

そうですね、素晴らしいことですね。

[参加者]

まあ、今皆さんのお話を聞いてまして感じた点ですが、今南アルプス市に 109 の区といますか、自治会があるわけですね。それぞれ皆さん特徴を持って一生懸命やっていると思うんですね。

ただしその男女共同参画という点から見ると、もう少し各地区の区がレベルアップをしていかないと進まないんじゃないかと。僕のようなこの区もあるし、皆様のように進んでいるところもあるということで、これから行政の皆さんのほうでちょっと助言をしていただくとか、一声掛けていただくとか。お金でなくて、そういうことをやってもらうことによってこの下のほうにある区がもう少しレベルが上がっていくんじゃないかというような気がしておりますので、是非またそちらのほうもお願いします。

[参加者]

私どもハーモニープラン推進協議会は、それぞれの区で行政と市民とが共同して男女共同参画な街づくりを行っております。それで私たちはその実現のために、やっぱり男女平等意識を根付かせなければならない、そういうことで私たちはその基盤固めに家庭部会、職場部会、地域部会と 3 つの部会を設けて、それぞれ活動しております。

本当に地道な活動ですけれども、お互いに言いたいことは言って、そして考えることを一緒に考えて、責任を持って、そして明るい社会をつくっていこうというのが男女共同社会だと思います。そんなことで私どもは一生懸命してます。

先日、男性の方とちょっと話したんですけれども、「男女平等って言うけどね、男女平等なんてあり得んよ」って言うんですね。それで「何？」って言ったら、「男は授乳はできないんだよ。それなのに平等なんてあり得る？」って。それはやっぱり人間の平等と機能の同じということの全然区別がしてないということですね。だからやっぱり私たちは本当に地道な活動だけれども、していかなければならないなと思っております。

そして合併と同時に男女共同参画が市の重点課題の中の一つに入れていただきました。それで研究部会が発足し、その後プランが作られ、昨年に条例を作って、皆さんの息をさらに盛り上げて実践へ結び付けていこうということで、宣言都市を行いましたけれども、やはり市だけではこれは何ともしがたないところが出てくるんです。

上の行政のところでも少しこれはということを激励していただくとか、そしてお声を掛け

ていただくとか、そういうことをすることによって一般市民の方の何か奮い立つ気持ちがかなり違ってくると思うんです。

[参加者]

私は、県の推進リーダー、その前に生き生きアドバイザーからずっとやっておりまして、今は県の男女共同参画推進リーダーなんです。そんなことがありますのでこの南アルプス市でも昨年度の条例と、あと宣言都市のことまで係らせていただいたんです。

その中でちょっと感じたことが、県の推進リーダーをずっとやっているんですけども、任期が2年、そうすると2年やって終わり、2年やって終わりという人が出てきたりします。

今ここで聞いていると地域でいろんな活動をしていますよね、そういうところで私たちがどんどん入っていかなければいけないと思うんですが、その中で途切れがちな気がするんですね、1年ごとに県の推進リーダーをあげていくというシステムをしていただくとはばっと切れないような気がするんですよね。

[男女共同参画課長]

推進リーダーさんは、2年ごとというふうなことで、各市町村のほうから皆さんの推薦をいただきまして地域のほうで活躍していただくということなんです、その2年で全員が交替になってしまうというふうな意味ですね。例えば2年をちょっとずらして、半分ずつぐらいに変わるようにということですね。

多分今おやりになっている年数が長いというふうにおっしゃいましたけども、やはりその方によっては2年、4年、6年というふうにおやりになっていただいている方もおりますので、それはまるっきり新しい方だけになってしまうということはないかとも思います。

今お話したように再任ということもございますので。

[参加者]

再任は確かにあるんですが、全員がやっていければいいんですけど。

[男女共同参画課長]

新しい方も入っていただくということで、やはりそういうリーダーの方たちは大勢の方にそういう機会を与えていただいて、皆さんがそのことに意識していただくというのも一つの要素になりますので。

[参加者]

それも分かりますので、それを1年ごとに交互にその役員がうまくいくといいなというふうに思うのでお願いします。

[参加者]

私もこのところ3年ほど市の推進委員ということで携わって参りまして、それから1年たったところで県の推進リーダーをさせていただきました。

そんな中で、19年度に入ったとたんに地域振興局単位でやっていた委託事業、男と女って書いて「男(人)と女(人)のフォーラム」、それが今年度なくなりました。

いよいよそれがある程度のネットワークができた、そして仲間もできた、じゃあそのところでまた・・・というようなことができなくなってしまったということで、そうするとこの1年間、何だ何だということなんですが、たまたま今までやって来た人との仲間内に呼び掛けまして、今一度手をつなごうということで、「こま未来塾」という名前を付けまして、この1月19日、一応設立をします。

ですけど、18年度まで続けてきた、地域振興局単位の事業がなくなっちゃったということをお聞きしたい。

[知事]

まあ話せば長いんですけども、中々皆さんから見ると県、あるいは県と市町村というのは同じなんですけど、やっぱり県と市町村と役割分担がありまして、地域のことで基本的なものは市町村にやってもらうという、しかも合併で大きくなりましたからね。

だからフォーラムというようなことで地域別のフォーラムというのは市町村にやってもらえればなというようなことなんですよね。

まあ全県的なフォーラムはもちろんやるんですが、そういうような仕分けをしてなくしたということなんです。まあそれがいい悪いはともかくとして、理由はそういうことなんです。

[参加者]

それについて、せっかくネットワークができて、それで県で5つぐらいあると、そこで発表の場をもって、それぞれの情報交換もできるんです。

そして落ちていっているところが進んでいるところの勉強ができるし、進んでいるところはまた色々な情報を得る。だから是非その5つがあると私どもは色々な点ですますすいい方向にもっていけるんじゃないか、そんなことで提案したと思います。

[参加者]

ハーモニープランの職場部会の副部長をしています。

実は行政の関係でちょっと知事にお願ひがあるんですけど、県職員の幹部を男女半分半分にしてほしいんです。

南アルプス市では2割ぐらいしかいないみたいなんです。そして結局男と女、半分ずつでも単純計算でいいんじゃないかなと思ひまして。だから女性の土木部長がいてもいいと思ひます。

私も技術者なんですけど、女性のほうがより不正を見逃さないという機能が断然男性よりありますから、例えば営繕課の検査職員に女性を登用するとか、特に工事管理部門とか

はしていったほうが施工ミスというのは防げると思います。

[知事]

新規採用は今女性がどんどん増えているんですよね、4割ぐらい女性なんですけども、上のほうになるとやっぱり、一応幹部になるまで20年30年掛かりますからね。

だからあと20年、30年もたったらそうなるかもしれませんが、いっぺんに、ついこの間役所に入ったばかりの人を部長にするというわけにはいかんことなので、少し時間掛かりますね。

しかし段々そうなってくると思います。

[参加者]

藤田区の防災活動は、防災ボランティアの活動に、年々助けられて運営しているんですけど、少子高齢化なんていっても十数年で約世帯数が倍、1月1日現在で1,079世帯ぐらいになってしまって、現在も開発が進んで当分止まらないだろうと思います。

自治会の普及率が半数以下になってしまって、地震の時、区民をどのように対応するかという災害対応で非常に心配になったんです。

それは、できたら区の全世帯の情報を知りたいわけですよね。それで区民の把握をして、災害時の対応もしたいし、自治会の立ち上げを進めたいという努力をしているんですが、個人情報保護法と条例がネックで中々進まない。

何とか規制をかけて使用を制限するとか、何らかの方法で自治体で使用できるような形に知事さんのほうで国のほうへの働き掛けとか、あるいは条例法の弾力的運用みたいな形の関係を研究していただければ非常にありがたいと思うんですが。

[知事]

そうですね。それが今かなり大きい問題になっているんですよね。

防災という観点から地域住民の実態を把握しようと思うと、個人情報保護法に引っかかるというか・・・、どうしたらいいんでしょうかね。

[参加者]

住宅地図にも最近はアパートには名前が入っていないし、電話帳も近頃じゃね・・・。
非常に心配の種になっていますけれども、是非よろしくお願いします。

[知事]

個人情報と災害の防災情報の問題はちょっとよく検討してみますから。
分かりました。

[参加者]

飯野10区子どもクラブは、こちらに貼ってあるように七夕、敬老会、体育会とか体協

の協力を得て活動しています。ラジオ体操は、通常よその地区ですと1週間ぐらいで終わっちゃいますが、7月の23日から8月の25日まで、間にお盆休みをはさみましたけども、約1カ月、ラジオ体操ぐらいだったらラジカセ持って広場に行けばできるので活動しています。

あと今年残っているのが、地区の体協と一緒にボーリング大会、その他の歓送迎会ですね、その前に次期役員を決めるんですけど、今まで皆さんお話されて中々前向きな話ばかり出てきたんですけども、中には男女共同参画、そんなもんいいやという人も実際にいます。

子どもクラブの親に電話します。

「そろそろどうですか」

『いや、うちがいいです。土日、出れません』

「いや、ご主人か奥さん、どちらか片方だけでも出てきてくれれば、一人でやるわけじゃないんで・・・」といっても、

『いいです』という話ですね。

ほかのことにしても、子どもは出します、親は出ませんみたいな家庭もあります。

今日、知事と実はこういうことがあるんだよと会社のほうでも話して、何か意見があると言ったら、「男女共同参画、よく分からんけども強制されて出るのは俺は嫌いだから・・・」なんて、そういう話をされたりして、地区で例えばそういう雰囲気というか、あそこの家は全然出てこないとか、あくまでもそういう下地を作って自発的に出るというのが本来の趣旨だと思うんで、役員さんが集まって子どもが来て親が来ない。あそこの家は子どもだけよく出して、親がいっさら出んで、というそういう雰囲気を作っちゃうとこれは非常にまずいかなと思うんです。

各地区、うちの区を含めてですけども、その辺のところに気を付けながら今後も活動していきたいなと今やっています。

[参加者]

藤田のラブLOVEクラブの副代表をしています。

今の話で地区の行事に家庭が出れないということなんですけども、実は私も藤田によそから引っ越してきました、もう18年、19年ですかね、それからずっと実はほとんど地区の行事には参加してなかったんです。

仕事が忙しいとか、土日はちょっとかったるいから家にいたいなとかという感じで出なかったんですけども、ある社協の行事で区長さんとか皆さんと知り合いまして、非常にいいところだというふうに思いました。

そう思うと地区の色々な行事に参加するのもすごく前向きになれるんですね。そうすると自分の回りにいる人たちも一緒に出ましようよと誘うというふうなことができるかと思うんですけども、そういうところを支えるのって一つ働き方だと思うんですよ。

今ワークライフバランスと言うんですかね、そういったところを実際個々の企業でも当然進めてはいるんでしょうけども、県の条例とか、何かそういう仕組みとして一つ個々の会社がそういう働き掛け、そういうのを作りやすいような仕組みを作ってもらえればなと思うんですよ。

特に山梨県内は、中小企業多がいいますから、皆さんも遅くまで働いている、まあ実際今

も働く方は大勢いると思うんですけども、そういう方たちが地域に出てきて、一緒に働く、暮らすということを実感してもらえると、その中で自分が出ていけば奥さんも一緒に行こうよ、子どもも一緒に行こうよというふうに思う、何か本当みんなで普通に活動ができるんじゃないかなと思うんですよね。そこを何かできれば、考えていただければなと思います。

[知事]

確かに企業のほうの皆さんがそういう男女共同参画だとか、地域活動だとか、あるいは子育てとか、そういうことにやっぱり関心を持ってきている企業とそうじゃないのどずいぶんありましてね。

まあ県もそういう優良事業所を表彰したりとか何かするんですけどもね。大事なところですよ。

いくら地域に関心があっても、企業もそういう理解を示してくれないとだめですよ。大事なことだと思います。

[参加者]

私たち男女共同参画ハーモニープラン推進委員の家庭部会で、市の保育所連合会父親フォーラムというのが今月の26日にありまして啓発活動に行きます。そういう連合会のフォーラムみたいなところに参加して、父兄の人たちと直接話を聞くことがあるんです。

それで耳にするんですが、今共働き家庭が増えていまして、保育所とかに預けますと、例えば風邪なんかをひきますと熱が下がっても2、3日は家庭で面倒看なければならぬ。

だけど夫婦共働きで働いているとどちらかが休まなければならないという時に、お互いにやりくりしても勤めを休むことができないという場合に、もし保育所とか幼稚園とかに保健婦が、看護師がいて、余りひどくない状態の子どもたちの面倒を看てもらえたら父親も母親も休みを無理して取らなくってもいいかな。そうすると子育てもしやすいかなという話をそういうフォーラムとか何かの時に耳にします。

県で何かそういう資格がある人を考えていただくようなことは、できないものなんでしょうか。

[知事]

資格ある人というのは看護師さんですね。保育士さんはやっぱりそういう治療的なことはできないでしょうからね。看護師さんも今足りなくて、病院ですら足りない・・・。

[参加者]

保育園とか幼稚園に、やはり看護師さんとか医療の知識を持った人を是非配置してほしいのと、あと保育園の保育士さんにもそういった医療というか障害とかに関する知識を勉強するような機会を是非与えてもらいたいなと思うんですよ。

というのは私はラブLOVEクラブ以外にも障害児の乳幼児の療育の活動にも携わっていまして、そういったところで話を聞きますと、やはり保育園とか小学校の先生方が障害というものを知らないというか、学校、学生時代に勉強する中でも障害というものを余り

勉強していない中で先生になってきて、そして保育園や学校で障害児の子と会うと、多分皆さんすごく戸惑いを感じているんですよね。

ここ2年ほど学校の夏休みに合わせてあけぼの医療福祉センターでセミナーを開催させてもらっていても、やはり先生とか保育士さん大勢来るんです。

やっぱりそういう子どもを受け入れてもらえるような環境も整備していってもらえればなと強く思います。

[知事]

確かに、大事なことですな、それは。まあ看護師さんが配置できればいいんですけどね。

巡回の看護師さんでもいいですよ、保健師さんがそういうような役割を果たすんですけどね。

そうですか。

[司会]

今日はほとんどの方から発言をいただきまして本当にありがとうございました。

そろそろまとめに入ろうかなと思っているところなんですけれども。

[参加者]

知事の、これから山梨県をどういうふうにつくっていくという思いがあると思うんですが、一つの夢を語っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

[司会]

ではまとめとして、今の話しも含めて知事さんに最後にお願いいたします。

[知事]

今日は盛りだくさんな貴重な話をお聞かせをいただきまして本当にありがとうございました。

いろんなお話が出たものですから、中々全体をまとめるということも簡単にはできないんですけども、それぞれの地域で区長さんをはじめとして皆さん方が色々と工夫を凝らし、また悩みながらもそれぞれ特徴のある活動をし、努力をしておられるということが分かりまして、本当に頭が下がる思いです。

皆さん方のような方がおられるから、この地域社会というものは成り立っているんじゃないかなと、そういうものに無関心な人もいますけれども、しかし皆さん方のような方々が一生懸命自分たちの住んでいる地域をよくするために努力をいただいているからこそ山梨県というものがうまく回っているんじゃないかなという感じがしております。

特に防災の問題では、本当にそれぞれの組が地域が本当に一生懸命取り組んでいただいております、改めて本当に心強く思っているところです。

今日色々いただいたご意見を十分参考にさせていただきながら、中々さっきも言いましたように県でやることと市町村でやる場所がありまして、自らここは市町村だな、ここは県だなというところはあるんですけどね、その辺のところはよく市町村と相談しながら

ら皆さんのご意見が生かせるように努力をしていきたいと思ひます。

それから、山梨をどういふ方向に持っていくんだという、ビジョンというか、夢を聞かせていただきたいというお話であります、山梨というのは本当に東京にも近いし、それでいて環境もいいし、水もいい、空気もいい、景色も素晴らしい、本当にいいところだろうと思ひますよね。

しかし、経済の面で見ると全国は景気がいいのに山梨は余り景気がよくないとか、それでその住みやすさの面でもやはり東京とかそういうところから若い人が山梨に就職してくると2、3年するとまた帰っちゃうとか、住みやすさの面でもいま一つというところがありましてね、まだまだやらなければいけないことがたくさんある。

だから山梨のこのいい点を生かしながら、「暮らしやすさ日本一」ということを言っているんですけども、住みやすい、日本のスイスと言ってもいいような、日本全国の人たちが憧れを持ち、山梨に住んでみたいと思ひするような、そういう地域を作っていきたいというふうに思っているんですね。

これは決して不可能なことじゃないんで、暮らしやすさというのはやっぱり本当の大田舎じゃ中々できない。しかし東京の真ん中のような過密の地帯では中々できないわけで、山梨のように都会的なものと田舎的なものがちょうど混じり合っているようなところで暮らしやすさというのは高まっていくんじゃないかと思ひますね。

それに加えて何よりの財産は県民の皆さんが非常に、今日お出でになっている皆さん方がその代表ですけれども、熱心に地域活動に取り組んでいただいている。

山梨の場合にはある調査によりますとボランティア活動参加率というのが日本で一番高いんですね。県民の皆さん、私の友人なんかもみんな何かどこかボランティア活動に参加しておられる。それだけ地域に一生懸命よくしようという思ひを持っている方が山梨県の皆さんには大勢おられるということもありまして、そういう県民の皆さんの意欲というか、それを活かしながら「暮らしやすさ日本一」の山梨をつくっていきたいというふうに思っているんです。

どうも抽象的で余りぴたりとこないかもしれませんが、まあ意のあるところを是非汲んでいただきたいと思ひます。今日は皆さん本当にありがとうございました。(一同拍手)

[司会]

どうも皆さんありがとうございました。全員の皆さんから熱心な発言、素晴らしい発言をいただきましてありがとうございました。

これで知事対話「県政ひざづめ談議」を終了させていただきます。